1組3班

高校生の生活とSNS

井口 るり　金光 莉奈　神原 千純　眞田 みなみ　難波 亜由

要旨

本校生徒232人を対称に，ソーシャルネットワークサービスの利用状況についてアンケート調査を行った。その結果，一方的な情報伝達では視覚的な手段が使用され，相互的な情報交換では聴覚的な手段が用いられることが明らかになった。

キーワード：SNS，情報伝達，視覚，聴覚

1　序論

近年の，インターネットや携帯電話の普及に伴い，私たちの生活にはパソコンや携帯電話のような電子機器が必要不可欠な存在となってきている。全国の高校二年生の携帯電話（スマートフォン）の所持率は93.5%，本校高校二年生の携帯電話所持率は92.7%である。現在，ソーシャルネットワークサービス（以降「SNS」）というものがある。代表的なものとしては，"LINE","Twitter","Facebook","Instagram"などがある。

私たち中高生の多くが利用しており，様々な情報伝達の場となっている。物事の伝わり方は，伝える手段によって伝わり方は異なる。

そこで，本研究は伝える手段に着目し，質問紙型調査により調査を行った。

2　研究方法

本校倉敷天城高校2年次生（232人）を対象に以下の項目の質問紙調査を実施した。

［質問項目］

Q1　携帯電話などの電子機器を持っているか

Q2　スポーツの途中経過や結果を調べる時にどのような手段を利用するか

Q3　LINEまたはカカオトークを使っているか

Q4　LINEの無料通話またはビデオ通話を使うか

Q5　内容によって伝える手段をどのように変えるか（トーク・無料電話・TV電話）

Q6　有料スタンプを買っているか

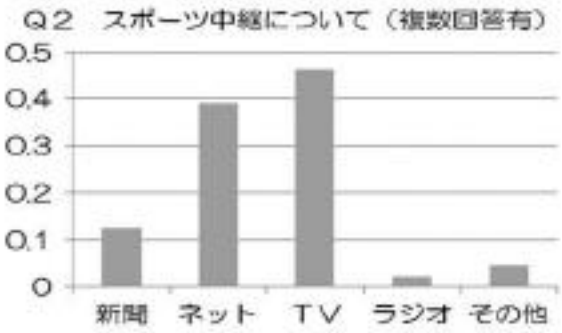
Q7　スタンプをどのように使うか

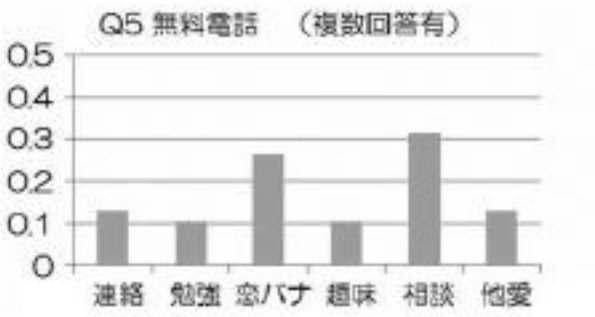
（文字を打つのが面倒なとき・トークを終わらせたいとき・特に意味もなく使うとき）

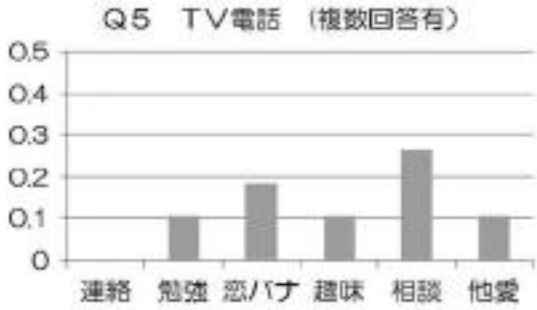
以上の項目についての回答から，天城高校生のSNS事情を調べた。

3　結果

質問紙を実施した結果の中から，Q2，5の結果について，以下のグラフに示す。







4　結論

本研究で伝える手段としてＬＩＮＥなどは間接的であり一方的であり，逆に電話やＴＶ電話などは相互的である。また，スポーツの途中経過結果を調べるためにネット速報やＴＶ中継が支持されている。そのことから，ネット速報は近代のケータイ電話やスマートフォンの普及により，便利で手軽に使えるため用いられているのではないか。また，ＴＶ中継は視覚的にも聴覚的にも情報が伝わってくるため，その場の雰囲気や臨場感を味わうことができるのでこのような結果になったと考えられる。

ＳＮＳの代表格であるＬＩＮＥでは，視覚的な伝える手段であるトーク，聴覚的な伝える手段である無料電話やＴＶ電話があるが，話の内容によってその二つの手段を使い分けている傾向がある。視覚的な手段では，連絡などの一方的に伝えるだけでよい内容を話していることに対し，聴覚的な手段では，相互的に会話が成り立つ内容，例えば恋愛などの真剣な相談をしていることが分かった。この二つの結果により，視覚的か聴覚的のどちらか一方よりも，両方を伴った手段が一番支持されていることが明らかになった。これに準ずるＳＮＳ機能はＬＩＮＥの中のＴＶ電話だと考えられる。内容や相手によって，伝える手段を使い分けていくことが必要不可欠である。

【参考 Web】

・中高生の LINE，Twitter の利用率，スマホ所有で 2 倍以上伸長することが判明：Gaiax
（http://www.gaiax.co.jp/news/press/2014/0724/）
・携帯電話の利用の実態　携帯電話の所有率，子どもの ICT 利用実態調査：ベネッセ
（http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/ict_riyou/hon/hon1_1.html）

1組4班

恋人は必要か不必要か

鳥羽 勇利　仲村 海　星島 流偉　松成 優一郎

要旨

天城高校２年次生を対象に恋愛に関する意識調査を行った。その結果，恋人がいる生徒は全体の約１２％と少なく，彼氏彼女が欲しくない理由として，男子は学問や部活に力を入れたいと考えている人が多く，女性は恋愛が面倒だと考えている人が目立った。

キーワード：恋愛，意識調査，男女差

1　序論

草食系男子の増加，結婚率の減少，恋愛への興味不足，今日恋愛に関するニュースをよく耳にする。私たちはそのうち結婚率の減少の問題を考えてみた。

2　仮説

現在結婚率の減少が問題となっており，若い世代の男子の恋愛への興味不足が一因しているのではないかと考えた。

3　研究方法

２年生文系３クラス＋理系２クラスの計 172 人を対象に，下記の項目で恋愛に関する意識についてのアンケート調査を実施した。

恋人に関する意識調査

２年１組４班

この調査は天城高校生の１，２年生の方々の「恋愛」についての考えをうかがい私達の課題研究の基礎資料を目的としています。

（男子・女子）

Ⅰ）あなたは恋人がいますか。

１ はい　　２ いいえ

Ⅱ）Ⅰで２と答えた人は恋人がほしいですか。

１ はい　　２いいえ

いいえと答えた人はその理由を教えてください。

１恋愛が面倒
２学問部活に力を入れたい
３その他【　　】

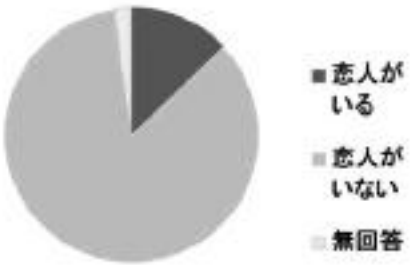
Ⅲ）交際するうえでの不安を教えてください。（複数可）

１自分に魅力がないのでは？と思う
２交際が続くかどうか
３その他【　　】

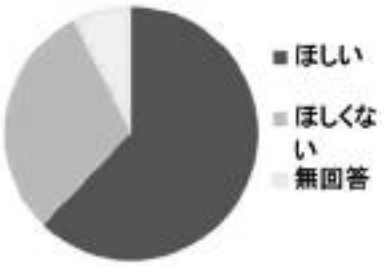
4　研究結果及び考察

アンケート調査の集計の結果，次のようになった。恋人がいる生徒は全体の約 12%と少なかった。また彼氏彼女が欲しくない理由として，男子は学問や部活に力を入れたいと考えている人が多く，女性は恋愛が面倒だと考えている人が目立った。

恋人がいるか否か

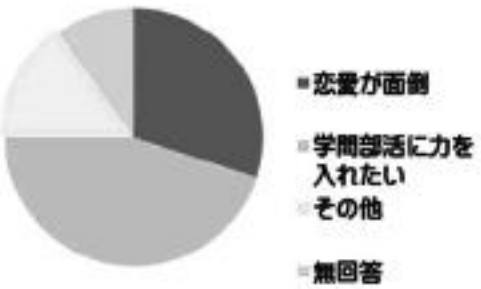


彼女がほしいか否か

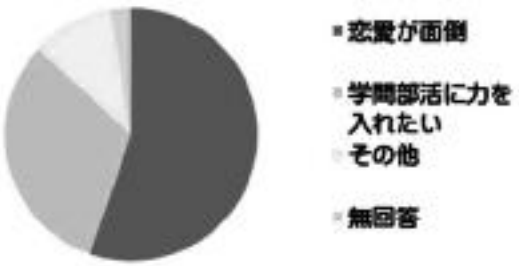


彼氏がほしいか否か

彼女がほしくない理由



彼氏がほしくない理由



5　考察

学生の時から恋愛が面倒と考えているのならば，今よりも忙しくなると思われる社会人となったときには仕事ばかりになり，恋愛に関心がいかなくなることが推測される。それが，結婚率の減少の一因であることが示唆された。

1組5班

文字の色のデザインについて

市来 巧弥　鶴旨 広大　東田 拓実　藤本 凌世　森上 泰成

要旨

広告や看板のデザインの色について文献調査を行い，色の違いは人が物を見るときにそれぞれ異なる印象を与えることが明らかになった。また，色が与える印象はそれぞれ固有のものであることも明らかになった。

キーワード：色，印象

1　序論

現在，生活をする上で，様々な広告や看板を目にする。それらを見ていると，多くの色やデザインが使われていることに気付く。その上，使う場面によって色やデザインが使い分けられていることもわかる。そこで，私たちは，広告や看板のデザインの文字の色，またどのような場面でどのような色を使えばよいのかということに注目して，「赤・青・緑・黄・黒」の5色について調査した。

2　仮説

色の違いの要因が何によるものか，次の仮説を設定し，広告や看板を分析することにより検証することを試みた。

【仮説】　目立たせたいところや注意をひきたいものには，赤のような色を使い，リラックスさせたいものには，青のような色を使う。

3　研究方法

インターネットや本での文献調査を行い，その結果と日常生活で目にする広告や看板のデザインを比較し仮説を実証する。

4　結果

複数の文献を調査したところ，各色が以下のような印象を与えることが分かった。

「赤」：情熱的・強さ・暖かい・危険・注目・暴力

赤は交感神経系に刺激を与え，血圧や体温・興奮作用を高める。

「青」：リラックス効果・清潔・誠実・食欲減退効果・寒色効果

青は気持ちを沈静化させ，集中力を増す。

「緑」：安心感・リラックス効果・鎮静作用・安らぎ・平和

緑はフレッシュで若々しい印象，安心感や信頼感を与える。

「黄」：活発さ・解放感・明るさ・希望・奇抜さ

黄は交感・副交感神経を刺激し，脳を活性化させる。

「黒」：高級感・力強さ・知的さ・不安・恐怖

黒は不安や恐怖によって，人間の活動エネルギーを低下させる。

5　考察

色は，その違いによってそれぞれ人に異なる印象やイメージを与えることが分かった。私たちが普段生活するうえで目にする看板や広告には，目的によって色が使い分けられていることも明らかになった。例えば，信号は人に危険や注目を示すために赤が使われている。このことより，世界的なコーヒーショップのロゴは緑が主体であるのはリラックス効果や安心感を与え，あるコンビニエンスストアのロゴは黄色と赤色が使われており，これは車を運転する人の注目を集めるためだと考えられる。

【参考 Web ページ】

１２色の色が与える印象について，配色に困った時のいろいろ。：Handy Web Design

(http://handywebdesign.net/2012/07/12colors-give-you-the-impression/)

１組６班

日本昔ばなしの内容の変化

石橋 早紀　　中桐 綾音　　三口 菜穂　　本倉 美乃里

要旨

日本昔ばなしの内容の変化について，その原因は作者の地方性もしくは教育的配慮であると仮説を立て，日本昔ばなしである「かちかちやま」の内容を比較調査した。その結果，教育的配慮によって内容が変わった部分もあったが，残虐な場面の扱い方には作者の意向が強く反映されていることが明らかになった。

キーワード：日本昔ばなし，内容の変化，比較調査

1　序論

私たち日本人は，必ずと言っていいほど，幼い時に両親や祖父母から日本昔ばなしを読み聞かせられる。年をとっても，その内容を覚えている人も多いのではないだろうか。しかし，近年では，私たちが幼い頃に聞いた日本昔ばなしの内容が変化しているということを耳にする。 この原因を，日本昔ばなしの１つである「かちかちやま」を取り上げ，その内容を比較することによって調査した。

2　調査項目と仮説の設定

（1）調査項目

１９６７年，１９８４年，１９８７年，１９８８年，２００２年，２００４年，２０１０年に出版された７冊の「かちかちやま」において，以下の５つの項目について調査を行った。

①たぬきの捕らえ方　②おばあさんの殺し方　③おばあさんの死後
④うさぎの言い回し　⑤たぬきの殺し方

（2）仮説の設定

【仮説】　作品の年代が新しくなるほど内容が変化し，その変化している内容に影響を及ぼしているのは作者の地方性もしくは教育的配慮である。

3．結果

①，④について作品ごとに比較した結果，以下の傾向が見られた。

①切り株に松やにを塗る，とりもちをつける，くわを投げる など
④かちかちやまのかっちんどり，
　かちかちやまだからかちかち ばりばりやま，
　ぼうぼうどりともんもんどりのいるぼうぼうもんもんやま など

これらは作者の出身地や方言といった地方性によるものであった。

また，②，⑤の内容については多少の表現の違いは見られるものの，すべて以下の内容であった。

②殴り殺す　⑤船を沈める

これらは作者の意向を受けた教育的配慮によるものであった。

③の内容については，作品ごとに表現が異なったため，年代による関係性を見るために表に示した。

表　③について

年代	作者	ばば汁をつくる	ばば汁を食べる人物	おばあさんの発見時の状態
1967	まつたに　みよこ	×		死体
1984	岩崎　京子	○	たぬき，じいさん	骨
1987	田島　征三	○	たぬき	骨
1988	おがわ　としお	○	たぬき，じいさん	ばば汁
2002	松谷　みよ子	×		死体
2004	長谷川　摂子	○	たぬき	骨
2010	いもと　ようこ	×		死体

4　結論

年代が新しくなるほど教育的配慮によって残虐な場面がなくなるわけではない。教育的配慮によって内容が変わった作品もあったが，多くは作者の意向が内容に強く反映されていた。作者の意向にはおじいさんとうさぎの協力性や勧善懲悪を重視したため，残虐な場面を描かなかった場合と，命の大切さや尊さを伝え，教訓となるような内容を変えたり甘くしたりする必要はないと考え，残虐な場面を描いた場合とがあると考えられる。

幼い頃に読んだ絵本の内容は，成長した後も強く印象に残るものであり，教訓的なものや，日本の文化を伝えていくのに効果的な手段として，今後も日本昔ばなしを後世に残し，伝えていくべきだと考える。

【参考文献】

・まつたにみよこ：かちかちやま，ポプラ社，(1967)
・岩崎京子：かちかちやま，フレーベル館，(1984)
・田島征三：かちかちやま，株式会社ミキハウス，(1987)
・おざわとしお：かちかちやま，福音館書店，(1988)
・松谷みよ子：かちかちやま，フレーベル館，(2002)
・長谷川摂子：かちかちやま，岩波書店，(2004)
・いもとようこ：かちかちやま，金の星社，(2010)

1組7班

男女のコミュニケーションの違い

平松 亜莉沙　伊藤 華　原田 帆乃香　藤岩 奈穂　山口 千智

要旨

異性間のコミュニケーションの違和感をなくすことを目的に，倉敷天城高校２年次生を対象に，異性間のコミュニケーションに関するアンケート調査を実施した。その結果，異性間の会話で表れる態度や話し方は，同性間との会話とは違うものであり，相手に求める会話の目的も異なることが明らかになった。

キーワード：コミュニケーション，アンケート調査，異性間，同性間

1　序論

私たちは，異性間に生じるコミュニケーション（話し方，ジェスチャーetc）の違いに疑問を持ち，この議題について研究を行った。

2．仮説

男子生徒と女子生徒では，苛立ちを覚えることや嬉しい言葉，困ったときの解決法などで違いがある。

3　研究方法

倉敷天城高校２年次生を対象に下記のようなアンケート調査を行った。

① 異性間での会話の中で苛立ちを覚えること
② 異性に言われて嬉しい言葉
③ 異性との会話の中で気になる態度
④ 異性とメールで連絡をとるさいに，連絡，相談，コミュニケーション目的，雑談の中で頻度が高いものはどれか
⑤ 困ったときに人に助けを求めるか，自分で解決するか

4　結果と考察

（1）男子生徒は，「女子生徒の自分の事ばかり話す，話が長い，何を言っているかわからないことに苛立ちを覚える。」女子生徒は，「男子生徒の話を聞いてくれない，人の文句を言う，自分の自慢話に苛立ちを覚える。」

→男子生徒は，女性の話が長くなることに苛立ちを覚え，何を言っているのか分からなくなる。それは男子生徒が自分の利益になる話を聞き，何かを得るために会話をしているからと考える。女子生徒は，話を聞いてもらいたいのに聞いてもらえないことに苛立ちを覚える。それは，女子生徒が思いを共有し，それについて話すことが目的で会話をしているからであると考える。

（2）男子生徒は，褒め言葉，お礼の言葉，愛の言葉を言われると嬉しい。女子生徒は，褒め言葉，お礼の言葉，応援の言葉を言われると嬉しい。

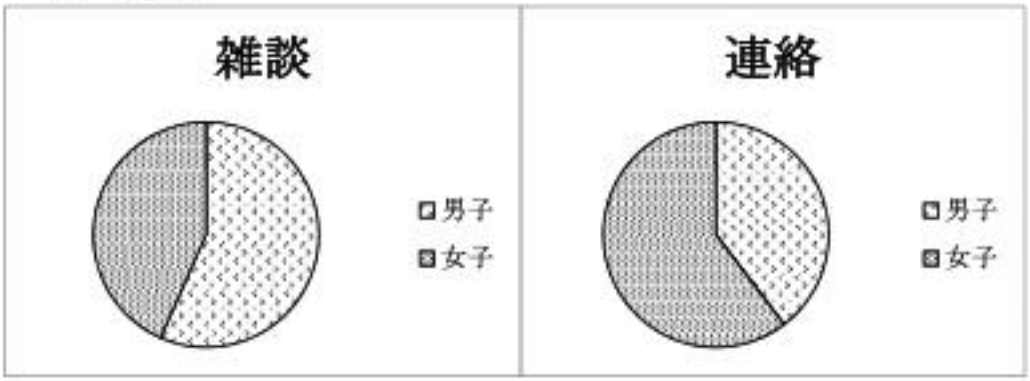
→男女で上位にくるものは変わらないが，違いが出たのは，男子生徒はストレートな表現が嬉しく，女子生徒は，背中を押す表現が嬉しいという部分だ。

（3）男子生徒は，目を見て話すことが気になり，女子生徒は，目線をそらされることが気になる。

→どちらとも目線が気になることが分かる。

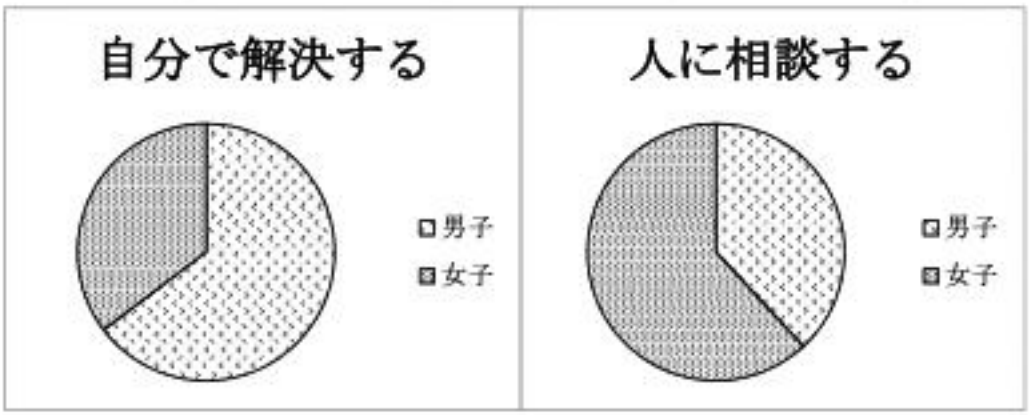
（4）男子生徒は，連絡と雑談との差は，あまりみられなかった。女子生徒は，連絡と雑談との差は，大きかった。

→男子生徒は，連絡と雑談は，どちらとも重要だと思っており，女子生徒の方が，連絡の方が重要だと感じる。



（5）男子生徒は，自分で解決するという意見が多い。女子生徒は，人に相談するという意見が多い。

→男子生徒は，人に頼らず問題を解決したいと考える。対して女子生徒は，悩みを共有したいと考える。



5　結論

男性と女性では，以上の結果より互いに対して思うことは正反対なことが多いことが明らかになった。女性は，思いや悩みを共有するためにコミュニケーションをとっているのに対し，男性は，自分の利益のためにコミュニケーションをとる。コミュニケーションの目的が違うために，違和感を覚える。これらの理由をもとに，互いのことを理解し，会話をしていくことによって，その違和感をなくすことが出来ることが示唆された。